

新春の  
ごあいさつ

は「五  
と、「壬」  
ります  
辞典によ  
十二支で  
は壬寅。  
年、十干  
年、寅  
く令和4

と、孫引きだらけのウンチクを並べていい気分になったところで急に思い出しました。私がその昔聴いて感激した、春の胎動そのものの音楽のことを。ストラビンスキーの「春の祭典」です。私が聴いたのはズービン

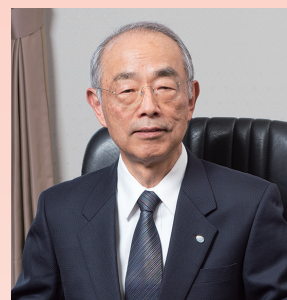
年になりますように。  
年になりま  
な音楽に象  
て、干支に  
おります。本  
他方で正常  
れていて昨  
すし、自由  
断を許さな  
コロナ災禍  
コ

挨拶とい  
ますと干支  
にちなんで  
これを説き  
うです。私  
うかと思  
申すまでも  
く令和4  
年、寅  
年、十干  
年、寅  
く令和4

# 厳しい冬を乗り越え 万物芽吹く成長の年(壬寅)に

す。如何で  
奏していま  
ストラが演  
者、オーケ  
者、指揮  
までもいろ  
気のある曲  
ち、です。最  
のうえなく、  
すような打  
金管楽器の  
鬱陶しい不  
は、テンポ  
タが力に任  
盤の「春の  
1969年に  
フィルハー  
・メータが

ます。  
えられたこ  
清々しい気  
めでとござ  
に教職員の  
学生の皆さ  
学長の皆さ  
野崎 茂



新潟国際情報大学  
学長 野崎 茂

行では水。方位では北にあたる。  
：北方に位し、此に至れば陰極  
まり陽生じて、萬物懷妊す。故に  
婦人の懷妊の形に象つて、その  
意を表はす」とあります。「妊  
に通じ、陽氣を下に妊む」と説  
明する向きもあるようです。一  
方「寅」の字については中国の  
歴史書によれば「春の胎動、春  
の象徴。草木が生ずる、成長、  
発育、誕生の意」とのこと。と  
いうことで、「壬寅」は厳しい

すか、お聴  
聴き比べも  
す。如何で  
奏していま  
ストラが演  
者、オーケ  
者、指揮  
までもいろ  
気のある曲  
ち、です。最  
のうえなく、  
すような打  
金管楽器の  
鬱陶しい不  
は、テンポ  
タが力に任  
盤の「春の  
1969年に  
フィルハー  
・メータが

## CONTENTS

## (1面)

新春のごあいさつ

## (2面)

内田応用ゼミ  
燕三条ものづくり  
メッセに参加  
部活紹介  
自転車競技部

## (3面)

ズームアップ研究室  
新潟砂丘遊々会  
上堰湯周辺をこだわりウォーキング  
学校法人新潟平成学院  
新理事長に佐々木辰弥氏

## (2・3面)

教員の活動

## (4面)

日本国際観光学会全国大会  
「アカデミックアワード」受賞  
にいがたデジコングランプリ  
掲示板アプリでグランプリ  
えちご想発xTECH  
お出かけアプリで奨励賞



NUISホームページ  
https://www.nuis.ac.jp  
(スマートフォン対応)



Facebookページ  
https://www.facebook.com/nuis.face



Instagram



Twitter  
@nuis\_nabbit



YouTube  
公式  
チャンネル

## 内田応用ゼミ

私たち内田応用ゼミナールは、2021年10月21、22日に燕三条地場産業振興センターで開催された「燕三条ものづくりメッセ2021」に参加しました。この展示会は燕三条の特徴的な製品や各種加工機器などを



社長からの熱心な説明を聞く筆者

## 自転車競技部

「自転車競技部」は、自転車競技会として2019年の7月に結成し、2020年2月に自転車競技部として公認団体へ昇格しました。できたてホヤホヤの部活です。部員は18名のうち8名がロードバイク、クロスバイクやタンデム自転車（2人乗り自転車）を所有しています。競技用自転車を持っていないくても入部でき、自転車を借りて自転車の楽しさを体感できるのが特色です。

製造している企業が一堂に会するもので、今年は約115社が出展しました。多数のビジネスチャンスの創出を目指す場であり、今年で8回目です。

私はこの「メッセ」訪問の話を聞いて、初めてこのような

## 燕三条ものづくりメッセに参加 企業のチャレンジ精神学ぶ

が催されていることを知りました。実際に企業に勤めている方の生の声が聞けるのでとても楽しみでした。私たちは一人1社訪問する企業を決め、企業への質問を準備しました。

にあふれていたため、質問ができるか不安になりましたが、企業の方の熱意から、緊張よりも「お話を聞きたい」という気持ちが強くなりました。私がお話を聞きすることができたのは4企業でしたが、私の考えてき

という言葉がありました。それを聞いて私も常に挑戦し続ける人でありたいと思いました。今回、燕三条ものづくりメッセに参加したことによって、私は積極性の大切さや企業の方の熱量、会場の雰囲気など様々な面で刺激を受けました。こうした体験をぜひ今後のインターンシップや就活に生かしていきたいと思っています。

コロナ禍による将来の不安要素はまだ尽きませんが、このような活動を通してその不安を払しょくし、どんな状況におかれても成長し、自分の将来の夢を実現していきたいと思っています。

### 4) 委員・社会的活動・記事・その他

木村 誠(経営学科・教授)

・(2019年9月1日より継続～2022年3月) 日本システムダイナミクス学会編集委員

藤瀬 武彦(経営学科・教授)

・(2021年10月3日) 第32回新潟県ベンチプレス選手権大会 審判(五上市県鳥ふれあい館体育館)  
・(2021年10月23日・24日) 第52回北信越学生陸上競技選手権大会 副大会長(新潟市営陸上競技場)  
・(2021年11月14日) 第45回新潟県パワーリフティング選手権大会 審判及び陪審員(五上市県鳥ふれあい館体育館)

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

・(2021年9月～2022年1月) スウェーデン・ヨーテボリ大学のV-Dem(Varieties of Democracy) ProjectにカンボジアのCountry Expertとして参加  
・(2021年11月13日～27日) 社会連携センター公開講座「基礎から学ぶSDGs(持続可能な開発目標)」(全2回) 講師(新潟国際情報大学・新潟中央キャンパス)  
・(2021年11月13日～12月1日) 社会連携センター公開講座「SDGsゼミ: 大学生と語る持続可能な社会」(全3回) 講師(新潟国際情報大学・新潟中央キャンパス)

## サイクリングで楽しさを満喫

## 工具メーカーの工場も見学

休日や放課後にサイクリングに出かけたり、アマチュアの大いに参加したりしています。サイクリングでは新潟県一周、およそ20キロの距離をスイーツと景色を楽しみながら、4時間かけてゆっくり走っています。

出場する大会は主に二種類に分かれています。完走することを目的とした大会と、速くゴールすることを目的とした大会に分けられます。前者では「新潟シティライド」という大会で、一番短いコースで33km、長いコ

また、サイクリングを通して多くの事を学ぶ機会を増やしたいという願いから、三条市周辺を走る際は、競技用自転車の工具を製作している相模産業の工場見学をさせていただきまし

ースでは120kmを完走した実績があります。後者では「新潟ヒルクライム」という大会のフリー部門にタンデム自転車で参加し、優勝した実績があります。自転車は乗り手の数だけ走り方、楽しみ方があります。私た



ち自転車競技部は一人一人の「FUN TORIDE」に寄り添い、自転車を通して多くの幸せを生み出していきます。

(情報システム学科 4年  
自転車競技部 主将 田中 優樹)

Reflections", English Scholars Beyond Borders -Dhofar University International Conference (Dhofar University, Oman, Online Conference)

藤田 美幸(経営学科・准教授)

・(2021年9月11日・12日) 「スポーツイベントのビジネスモデルに及ぼすCOVID-19拡大時の影響に関する研究: 『東北みやぎ復興マラソン』の事例から」 地域活性学会 第13回研究大会(オンライン)

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

・(2021年7月3日) 「カンボジア: 進む中国依存と日本の役割」 第27期にいがた市民大学『つながりから見えるアジアの姿と未来』(クロスバールにいがた)  
・(2021年10月6日) 「人民党体制下における地方選挙の役割と機能」 『権威主義体制下の地方議会選挙』研究会(日本貿易振興機構アジア経済研究所・オンライン)  
・(2021年11月29日) 「体制移行後のカンボジアにおける開発と政治」 『「体制移行」の比較解剖学: グローバリズム下の社会レジーム再編に関する総合的研究』全体研究会(京都大学・オンライン)

### 3) 競争的資金獲得研究

木村 誠(経営学科・教授)

・(2017年4月より継続～2022年3月) 平成29年度科学研究費助成事業基盤研究(C) 「IoT時代の顧客経験(CX) マネジメント: カスタマージャーニーの分析・設計・計算」 研究代表者  
・(2019年4月より継続～2024年3月) 令和元年度科学研究費助成事業基盤研究(B) 「破壊的イノベーション論とプラットフォーム論を統合したデジタル戦略論の展開」 研究分担者



令和4年1月発行 2021年度 No.4

# 日本国際観光学会全国大会

私は海外留学を希望して本学に入学しましたが、コロナ禍の影響で夢を果たすことができませんでした。私



受賞動画「新潟県観光DXサポーターの取り組みについて」

は、この状況下で何かできることは、ないかと前向きに考え、国際学部佐藤泰子先生の研究室に所属

し、新潟県観光協会と共同で「NUIS TOURISM PROJECT」を立ち上げました。2年からは、県内の隠れた魅力を学び、国内外にPRする活動に取り組んでいます。プロジェクトの主な活動は、新潟の魅力的な場所を探し、写真を撮り、インスタグラムを通じて発信する、というものです。活動のテーマは「言語学」と「観光」の融合で、SDGsの「誰一人取り残さない」を土台として活

## 新潟の魅力動画を発信

### プロジェクトチームが「アカデミックアワード」受賞

動しています。PR文は人権に配慮した「plain language」に基づいて作成します。「plain language」とは、「やさしい言語」、つまり「人に優しい」、そして「わかりやすい」の2つの意味をもっています。この言語をベースに日本語と英語のPR文を作成しますが、日本語から英語に直接翻訳するのではなく、簡単な言葉で表現し、誰が見ても分かりやすい文章を作成するよう

に心掛けています。私たちは、昨年10月23日に開催された「第25回日本国際観光学会全国大会」の学生動画コンテストで、ある「アカデミックアワード」賞を受賞することができました。とても嬉しかったので、これからこの活動を通して、新潟の観光をどんどん盛り上げていきたいです。

(NUIS TOURISM PROJECT代表 動画プレゼンター 国際文化学科 3年 山口 玲加)

## にいがたデジコングランプリ2021

「Machiner」を

このたび藤田美幸ゼミで応募したデジタルクリエイティブコンテンツ「にいがたデジコングランプリ2021」のオー

## 掲示板アプリでグランプリ

動を活性化するため

活用部門「企画書の部」で、グランプリ（総務省信越総合通信局長賞）を受賞しました。

提案しました。回覧板など従来の方法では連携がとりにくく、若者が遠のきがちな自治会活動を活用するため、Machiner（街）とTwitterの二つの言葉をつないだアプリ「Machiner」を考案しました。既存アプリとの違いをどう作るか、幅広い世代に使ってもらえるか、などさまざまな視点から考える難しさを実感しました。



「くらしが便利に豊かになる」アプリの企画書を募集しており、山本葉子さん、川勝俊太さんの3人のチームで、街の暮らしを支える掲示板アプリ

に、Machiner（街）とTwitterの二つの言葉をつないだアプリ「Machiner」を考案しました。既存アプリとの違いをどう作るか、幅広い世代に使ってもらえるか、などさまざまな視点から考える難しさを実感しました。しかし、ゼミ内で意見交換をし、アプリを作成する際の情報格差やセキュリティの問題など、新たな視点から問題を見つけたことが、き、とても勉強になりました。今回の経験を今後活かしていけるように頑張りたいです。

(経営学科 2年生 和佳奈)

## えちご想発XTECH



昨年11月23日に長岡市の「アオーレ長岡」で開催された「えちご想発XTECH」(ICTビジネスアイデアコンテスト)最終審査発表会で、奨励賞を受賞しました。

「えちご想発XTECH」は、次世代ICTの未来を担う人材の発掘・育成と、地域課題解決のためのビジネスアイデア・サービス

## お出かけアプリで奨励賞

ト2021)最終審査発表会で奨励賞を受賞しました。私たちが違う着眼点やプレゼンの仕方など学ぶことも多くありました。この経験を活かして、さまざまなことに挑戦していきたいです。

(経営学科 2年生 曾山 日菜子)

## 湧源 編集後記に代えて

入試委員長 白井陽一郎

授業に雑談はつきものだとおもいますが、つい、昔話をしてしまう。自分が学生時代にどんなキャンパスライフを送っていたか、どうやらとても楽しそうに話してしまっている。学生から授業コメントで叱られてしまった。先生の時代は良かった、いまはつまらない、なんて話を聞かされるのは、気持ちの良いものではない、と。

そんなつもりはなかった。この学生に気づかされ、反省した。自分の昔話を楽しそうに他人に聴かせるようになってしまったら、もうおしまいだ。ただ、弁解になってしまいが、一応、意図があった。学生たちに、「きみたちはいま、楽しいですか?」と、問いかけたかった。ホットドックプレスを読んだ。ピアもチェックレバイト代はたいでデートして、ひとりきりになれば村上春樹の『ノルウェーの森』を読み耽る、そんな生活も、悪くなかった。

でも、シアスにワクワク感なくせず考えこんでしまうテーマに出会えるかどうか。それがキャンパスライフにとって死活的に重要になる。古本屋をめぐりながら一冊100円の文庫や新書を買って、ドトールでタバコを吸いながら珈琲一杯で何時間も粘るという生活が、いまの自分を作ってくれたのだとおもう。家が針の筵であつたから、ドトールは自分にとって大切なサードプレイスだった。まず、やっぱり昔話をしてしまった。自宅と大学とバイト先の往復で4年間は終わっても良い。深夜もしくは早朝、自分なる存在を忘れて考え込んでしまうテーマに出会えたとき、なにものにもかえがたい内的経験を、自分自身の心的体内に据えることになる。そんな僥倖が、この大学のすべての学生に訪れますように。